

米物価上昇基調はおおむね継続か

- 1月の米CPIは前年同月比+1.6%と2016年9月以来の低い伸びも、ガソリン価格下落の影響が大きく、足もとで物価上昇基調はおおむね継続していると考えられる。
- パウエルFRB議長は今後の利上げの必要性を見極めるために物価動向を注視する意向を示しており、足もとで米国の利上げ打ち止め期待が強まるなか、今後も米国の物価動向が注目される。

CPIコアは前年同月比で市場予想を上回る

13日に発表された1月の米消費者物価指数（CPI）は前月比で横ばいとなり、市場予想の同+0.1%（ブルームバーグ集計。以下、同じ。）を下回りました。前月比の内訳をみると、衣料が大幅な伸びとなったほか食品や医療費などが上昇したものの、ガソリンの大枠低下によりエネルギーが同-3.1%と大幅に低下したことが全体の足を引っ張るかたちとなりました。こうしたことなどからCPIは、前年同月比では+1.6%と、前月の+1.9%から伸びが鈍化し、2016年9月以来、2年4ヶ月ぶりの低水準を記録しました。

一方、振れの大きい食品とエネルギーを除いたCPIコアは前月比+0.2%と、5ヶ月連続で同水準の伸びとなったほか、前年同月比では+2.2%と、市場予想の+2.1%を上回りました。

1月のCPIは緩慢な動きにとどまったものの、ガソリン価格下落の影響が大きく、CPIコアの動向をみる限り、足もとで物価上昇基調はおおむね継続していると考えられます。

パウエルFRB議長は物価動向を注視か

同日の米国市場で10年国債利回りはCPI発表後に上昇し、前日の2.68%台から2.70%台へ水準を切り上げました。物価上昇基調がおおむね継続しているとの見方が上昇の背景にあるとみられます。ただし、同利回りは足もとも相対的に低い水準にとどまっており、投資家の米国景気動向などに対する懸念は根強い状況にあると考えられます。

パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長は米連邦公開市場委員会（FOMC）後の1月30日の記者会見で、今後の利上げの必要性を見極めるために物価動向を注視する意向を示しました。足もとで米国の利上げ打ち止め期待が強まるなか、今後も米国の物価動向が注目されます。

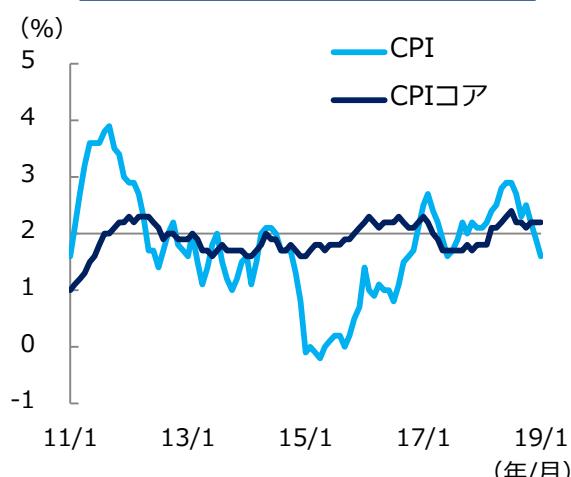
※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。



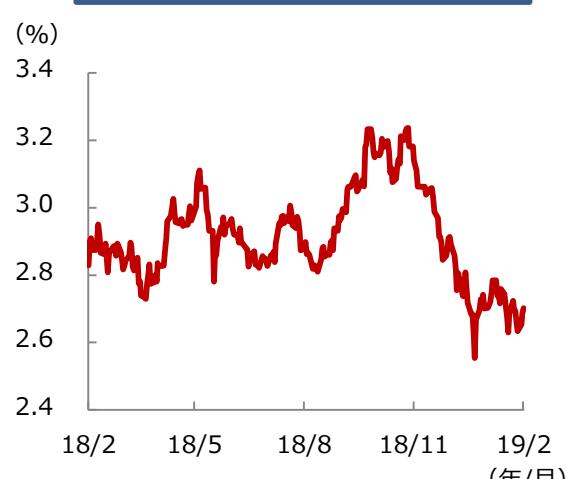
アセットマネジメントOne

米CPIの推移



※期間：2011年1月～2019年1月（月次）
前年同月比

米10年国債利回りの推移



※期間：2018年2月13日～2019年2月13日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

商号等：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（REIT）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

■ その他費用・手数料

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時に渡しますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。